

開催地名：滋賀県日野町	
開催日時	令和2年11月27日（金） 20：00～21：30
開催場所	日野町林業センター
語り部	横山 幸雄 （岩手県釜石市）
参加者	日野町防災士連絡会、自主防災組織役員 約40名
開催経緯	<p>当町では、南海トラフ巨大地震による被害が想定されており、発災時には一定の避難者が想定されている。また、地域の特性として、高齢者が多く行政機能でカバーしきれない部分については、地域コミュニティでの共助が重要になるが、地区により防災への取組には差があり、全ての地区で十分な体制が取れているとはいえない。今回、これらの防災に関する課題克服の一助とするため、語り部の講演を実施することとする。</p>
内容	<p>（1）はじめに</p> <p>岩手県釜石市は国内屈指の製鉄所を持つ“鉄の町”である。同市では、釜石湾にギネスブックにも登録された、海面下63メートルから積み上げた岩石のマウンドに、7階から8階建のビルに相当するコンクリートブロックを載せた世界最深の湾口防波堤を備えていたが、東日本大震災の津波はその防波堤を越えた。死者・行方不明者1,000名を超す犠牲者が出た。東日本大震災から10年が経とうとしている今でも、大変な震災に今でも身震いしてしまうのは私だけではないと思う。このときの津波は、今まで経験のない大変大きなものであった。</p> <p>（2）津波に流される</p> <p>地震発生時、私は岸壁から15メートルほどの場所に立つ釜石市海員会館の2階にいた。3分間ほど激しく、そして時に弱くを繰り返して断続的に揺れた。普通の揺れよりは大きいとは思ったが、大事には至らないだろうと安心していた。建物を出ると消防の人が防波堤の扉を閉めようとしていた。それを手伝ってから車で家に向かった。隣家の寝たきりの知人を訪ね、その家を出ると、津波が川の堤防を越えて迫ってきた。自宅に逃げ込んだとたん、玄関のガラス戸が割れた。水がどっと入ってきて足をすくわれた。気付くと私の上をごみが流れている。「水の中にいる」と思い、水面に顔を出して息をした。立ち泳ぎをしたが、足を伸ばして泳ぐと両足を水に引き込まれる。腰を曲げて、流れに逆らって泳いだ。電線をつかんで電信柱にのぼると津波が引き始めた。家や車が流れていくのが見え、寒さと恐怖で電信柱の上で震えていた。</p> <p>（3）負傷後、避難所へ</p> <p>津波が引いたあと、自宅へ帰って妻と再会できた。しかし、向かいの家の奥さんを救いに行くとき、津波の第三波がきた。倒れていた電信柱にのぼったが、右</p>

手が動かさなくなり、上へ進めなくなった。水かさはどんどん増えていく。「終わりだな」と思ったところで水が引き始めた。手を抜くと、くぎが6本刺さった痕があった。その後、妻たちと避難所へ行ったが、手の状態は悪く、グローブのように腫れ、曲がらなくなった。角材が脇腹にあたり、あばら骨も折れているらしく痛い。「破傷風になってはいけない」と、知人が救急車を呼んでくれた。救急車は翌日来たが、病院へ向かう道路は寸断されている。中学校のグラウンドに降ろされ、ヘリコプターで病院へ搬送された。破傷風は免れたが、そのあと避難した市の体育館もひどく寒かった。発電機でストーブに電気を送っているが、広い体育館にストーブが5台ほどしかない。毛布が2枚ずつ配られたので、それが入っていたビニール袋の上下を破り下に履いた。さらにもう1つにはストールを入れて枕にして寝た。

#### (4) さいごに

震災後、私は東京の老人クラブ本部に招かれて話をした。私は「体は流されたけど心まで流されない」というタイトルの体験談を書いて配布し、カメラやパソコンも全て流されたので、使い捨てカメラで被災地の写真を撮って画像を見せた。驚くべきことに、全国の老人クラブの会員から多額の寄付金が寄せられた。本当にありがたいことだと感謝している。

このたびの東日本大震災では、私は日頃の人付き合いの大切さを知った。私は津波で家と家財を失った。知り合いもたくさん失った。しかし皆さんの「ガンバレ」の声援を思い出し、津波に流されても「心は流されない」をモットーに努力している。その後、全国で震災の体験を話しているが、「どなたも二度と被災してはならない」という気持ちでいっぱいだ。



開催地より

災害の体験談・教訓に関することをわかりやすく、そして大津波に流されたご経験を臨場感いっぱいにお話いただき、また、映像でもその恐ろしさを体験することができ、とても参考になった。今後の防災意識醸成や自主防災組織活動の活性化を図っていきたい。